

県民の安心の  
拠り所となる  
病院であること

K o h a r u b i y o r i  
VOL. 62

# こはるびより

愛媛県立中央病院広報誌「小春日和」



## 長年当院を支えてきた医師 ～退職にあたって～



- Index** P1-3 長年当院を支えてきた医師 ～退職にあたって～  
P4 診療科紹介「腎臓内科」  
P5 ドクターズカルテ、研修医紹介  
P6 小児病棟 × とべ動物園 オンラインイベント  
P7 JMAT 結成・出発式（被災地支援）  
医療安全管理部だより No.53  
転入・転出医師（2023.12.1～2024.3.15）  
P8 連携医療機関紹介 ～第33回～

ご自由にお持ち帰り下さい

【発行】愛媛県立中央病院 松山市春日町83番地  
TEL:089-947-1111 2024年3月15日発行



  
愛媛県立中央病院

# 長年当院を支えてきた医師 ～退職にあたって～



副院長  
乳腺・内分泌外科  
佐川 庸

## ◎ 乳腺・内分泌外科医として

乳腺外科専門医かつ甲状腺外科専門医（現在の標榜－病院が掲げる専門性の名前－は「内分泌外科専門医」）をアナウンスしてから、十数年になります。2000年から担当していますが、その頃は甲状腺手術20例、乳癌手術40例／年ほどでした。有名どころとして、甲状腺といえば「別府の野口病院」を受診する方が多かったのでは。松山⇄別府航路もありましたね。実は私も、30年以上前にその野口病院で教わった一人です。

当時の院長先生のご指導で、手術よりもまず「超音波検査」と「穿刺吸引細胞診」の特技を教わり、そこから甲状腺診療の

基礎が始まりました。当初、乳腺・甲状腺の超音波検査は検査室の空き時間に使わせてもらうだけでしたが、次第にその機会が増え、外科外来に専用の超音波機器（といっても、エコー室のお古でしたが（笑））を持ち込んで行うようになりました。一人で始めて、徐々に患者さんも増え、スタッフも増え、中四国ではちょっと名の知れた施設となりました。愛媛県の乳腺診療といえば「四国がんセンター」が有名ですが、総合病院として、高齢者や合併疾患（例えば心疾患、肺疾患、腎臓疾患など）を有する方々には当院もお役に立っているのではないのでしょうか。近年は若い患者さんも徐々に増え、170～180例／年の乳癌手術を担当しています。



腎糖尿病センター長  
泌尿器科  
山師 定

## ◎ 腹腔鏡手術の進歩

私は1984年3月に愛媛大学を卒業後、初代教授の竹内正文先生に憧れて、直ぐに泌尿器科に入局しました。その後、関連病院を転々とし、2000年4月に愛媛県立中央病院に着任しました。徳島大学の先生たちと一緒に仕事をすることになりましたが、快く受け入れていただきとても感謝しています。

その時代は、腹腔鏡手術黎明期で副腎摘除術が始まって間もない頃でした。前院長の菅政治先生に腹腔鏡手術の同伴者として誘っていただきました。私は、とても不器用でしたが、腹腔鏡の魅力に惹かれました。開腹手術では観察できない

部分が多く、言葉や手術書で習得するしかありませんが、腹腔鏡手術では操作場面に必ずカメラが入り、見えている部分を操作していくのです。これが手術なのだと感じました。ビデオに録画できることで、上手な人と上手でない人の区別にもなり、外科医の淘汰にもなったでしょう。

腹腔鏡手術の発展は、外科系では大きな技術革新でした。しかし、重大な事故も発生したため2004年から腹腔鏡技術認定制度が始まりました。私は初回に合格することができ、それから後輩に技術指導を行うようになりました。今では沢山の人が合格して活躍してくれており嬉しく思っています。



がん治療センター長  
呼吸器内科  
森高 智典

## ◎ 退職のご挨拶

この度、34年の勤務を終え定年退職を迎えることになりました。若いころは外来、入院、救急患者さんへの対応に明け暮れていましたが、40歳台より院内感染対策などの委員会活動を通じ病院運営に係わるようになり、対人的な医療以外の医師の役目を知ることができました。

多くの出会いや学びのなかで特に心に残る体験として、平成7年の阪神淡路大震災救護活動と平成15年の耐性菌による院内感染事例をあげたいと思います。阪神淡路大震災では1週間、避難所となった長田区の小学校で救護活動を行いました。予定も何もない状況で自分たちに

きることを探すなかで、特に保健師さんの活動に感銘を受けました。これまで病院を受診される患者さんを診る診療しか経験のない自分にとって、視野の広がる経験でした。また環境やサプライチェーンなど自分の診療を支えてくれている多職種の人に感謝の念を持ちました。

院内感染事例を経験した時には直接の治療だけでなく同時に感染制御活動が大切であり、病院経営にも大きな影響があることを学びました。

呼吸器内科医としては、主に肺癌患者さんの診療を担当させていただいておりましたが、薬物治療では抗がん剤しかなかった時代から2002年からの分子標的薬、2014年からの免疫治療薬など目覚ましい

ではなぜ、「乳腺」・「内分泌」外科という分野なのでしょう？どちらも体表の臓器（触ることのできる臓器）であり、主に女性を対象とする疾患であり、診断法が触診・超音波検査・細胞診／組織診と類似しており、診断から治療までずっと担当医が変わらないという共通点があるからかもしれません。そのような診療に長く携わることができ、非常に光栄です。

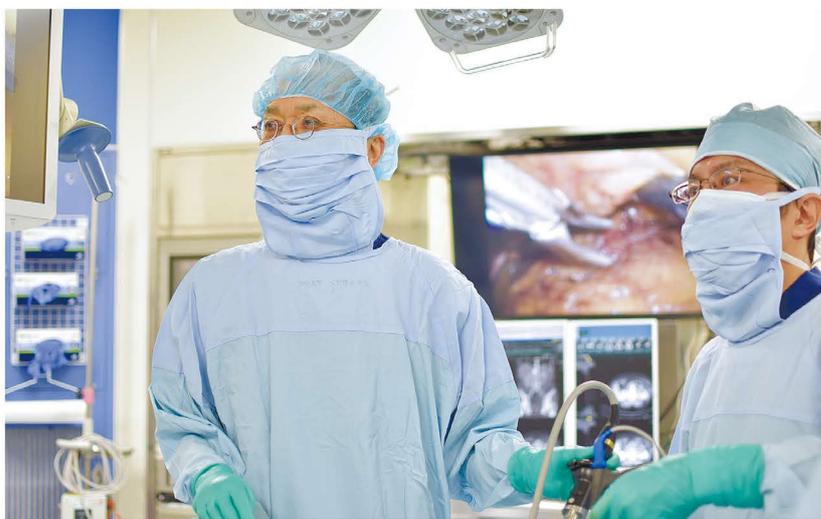
いまや9人に1人の女性が乳癌に罹患すると言われていますが、乳癌は最も治ることが期待できる「がん」であり、何よりご自身が発見することができる「がん」です。ひとまず定年という形で公務員を卒業することになりますが、違う立場からがん検診啓発活動にも携わっていきたいと思うところです。



▲当初は、科に超音波機器もない状態からスタートしました。

◀思い入れのある広場の生け花とともに

その後腹腔鏡手術は、腎臓、前立腺、膀胱に適応拡大されて、急速に普及しました。低侵襲はもちろんのこと、人の手が入らないので創感染の激減に貢献しました。2012年からはロボット手術が導入され、腹腔鏡手術はさらに進化しました。愛媛県立中央病院で、腹腔鏡手術の進歩を体験できたことが一番の思い出です。患者さんが腹腔鏡手術の恩恵を受けられているのは確かです。今後、国産ロボットを含めロボット手術がどのような発展を遂げていくか楽しみです。



▲現在も、後任の医師の助手として入り、多くの指導にあたっています。

進歩があり、進行した病状でも治癒を目指すようになっていきます。

適切な医療、標準治療を提供するには日々の研鑽、気力と体力も必要で、最近若く優秀な呼吸器内科医に頼ることも増えてきました。後任の医師には働き方改革と診療の両立を願い、私自身は身の丈にあった臨床と仕事以外の生きがいを模索していきたいと思います。

これまで関わりをもっていただいた多くの方に感謝いたします。



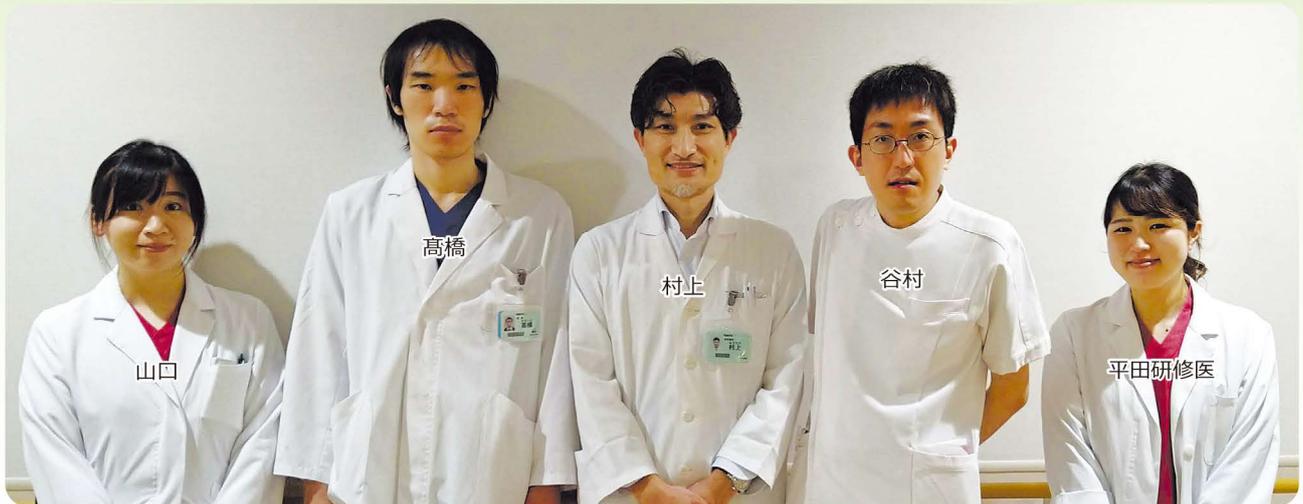
▲阪神淡路大震災で共に活動を行った救護活動班（本人右上）



▲院内感染事例記者会見時の様子（手前から本人、藤井元院長、富野元副院長）



## 診療科紹介 腎臓内科



腎臓内科は様々な腎臓病患者さん（ただし腎・泌尿器系がんを除く）の診療に携わっています。腎臓病が適切に診断・治療されないと、最終的に腎臓機能が低下し腎不全になります。腎不全が進行すると透析治療や腎移植が必要となり、腎臓病患者さんにとって大きな負担となります。そのため腎臓内科医は患者さんの腎臓機能を少しでも長持ちさせて、透析や腎移植を受けずにすむように日々診療にあたっています。また透析を受けることになった患者さんに対しては、合併症なく生活できるように治療を行っています。

腎臓病は生活習慣病（糖尿病、高血圧、メタボリックシンドローム等）、腎炎・ネフローゼ症候群、動脈硬化、遺伝子異常、薬剤等様々な原因により発症し、進行していきます。そのため、これらの原因となる疾患に対して適切に診断、治療を行っていくことが、腎機能を低下させないための基本となります。腎炎・ネフローゼ症候群の患者さんには確定診断のために腎生検と呼ばれる病理検査を行い、病理医の先生方とのカンファレンスで最終診断を行います。



▲腎病理カンファレンス風景

〔治療の一例〕



具体的な治療としては血糖や血圧を下げる薬剤を投与したり、腎炎に対してホルモン剤投与を行ったりするなど疾患に合わせた薬剤を投与します。さらには腎障害の程度に応じて食事指導を行い、運動療法を提案するなど様々な角度から治療を行っています。また当院では泌尿器科とともに透析療法（血液および腹膜透析）や腎移植患者さんの診療も行っています。腎臓内科および透析室看護師、臨床工学技士らと定期的カンファレンスを行い、透析患者さんの問題を解決しています。

腎臓内科は令和5年度から正規医師が4名に増員となりました。さらに令和6年度からは新たに若い腎臓内科専攻医の先生が加わる予定で、診療科として少しずつパワーアップしつつあります。これからも新たな仲間とともに少しでも愛媛県の腎臓病診療に貢献できるように努力していきます。



▲腎臓内科透析カンファレンス風景

皮膚科の松立吉弘と申します。徳島県出身です。2005年に高知大学を卒業後、徳島大学皮膚科に入局し、主に徳島県内の病院で勤務してきました。2020年4月より当院で診療しています。遺伝性皮膚疾患を専門にしていたが、皮膚疾患は何でも診ています。承認施設に限定される生物学的製剤や新規分子標的薬を用いた診療も行っています。少しでも愛媛県の医療に貢献したいと考えていますので、今後ともよろしくお願いします。

特定の趣味はありませんが、休日には息子の野球の試合を観に行ったり、一緒にキャッチボールや素振りをしたりして運動不足の解消を心がけています。



▲自宅で素振り



▲外来診察室にて

## 当院の研修医を紹介します

1 年次研修医 みたに ゆうき  
三谷 雄樹 医師

Resident

### 仕事以外の過ごし方を教えてください。

何も無い日は湯船につかり、早く寝ることで疲れを取っています。楽器(サクソ)を吹くことが一番のリフレッシュで、社会人楽団に所属しており、現在は演奏会に向けて練習しています。

### 日頃気を付けていることは何ですか？

普段の生活面では食生活に気を付けようと頑張っています。甘いものが好きなので、仕事帰りにコンビニスイーツをついつい買ってしまふことが多く、最近は食欲と闘う日々です。

### 今後の目標は何ですか？

気づけば2024年になり、もう少しで研修医2年目になりますが、まだまだ勉強不足だなと感じる日が多くあります。指導医の先生方をはじめ当院の職員の皆さんは優しく、様々な知識を得ることができる素晴らしい環境なので、これからも貪欲に学び続けながら当院の医療に貢献できればと思います。



▲形成外科的縫合の基礎手技を勉強中



▲社会人楽団で今もサクソを吹いています

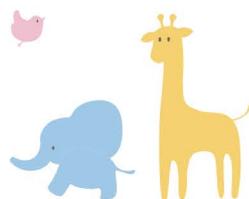
## 県内病院の小児病棟と県立とべ動物園を繋ぐ オンラインイベントが実施されました！



▲プレイルームで集まり、中継先から出題される動物クイズなどに元気よく回答し楽しんでいました。



▲動物園の人気者白熊「ピース」のぬいぐるみも寄贈いただきました。



### 『動物園を探検しよう』

5階小児医療センター 看護長 中岡 美都里

昨年11月20日にオンラインでアナウンサーや飼育員さんと一緒にとべ動物園を探検するイベントが行われました。

コロナ禍になってからは、ひとつの場所に集まったイベントは中止しており、子どもたちは入院中、プレイルームで親子だけの遊びや、自室でYouTubeを見るなどの娯楽はあったものの、子ども同士の交流なく過ごしていました。

今回このイベントで久しぶりに複数の子どもたちがプレイルームに集まりました。動物園の飼育員さんとのやり取りに、笑ったり驚いたり、きらきらと目を輝かせる子どもたちの表情を見ることができました。親御さんも子どもたちの楽しそうな表情を見て笑顔になり、日々の緊張から少し解放されたのではないのでしょうか。

今後、感染状況を見ながら子ども同士の交流が持て、子どもたちの笑顔が見られるようにしていきたいと思います。このようなイベントを行っていただき感謝いたします。



▲イベント当日は病棟全体が動物たちの写真でいっぱいになりました。



▲プレイルームに来られない子どもたちもタブレットを通じリアルタイムで視聴することができました。

### イベントについて

愛媛腎臓バンクが実施している、特定費用準備資金（亜裕美ちゃん基金）を活用し、「治療に励んでいる子どもたちを元気づけること」を目的としたイベントです。以前は院内プラネタリウムなどを行っていましたが、コロナ禍で一時中止となっていました。そこで令和4年度に、リスクが少なく子どもたちに喜んでもらえる本イベントを企画、愛媛大学医学部附属病院にて実施したところ、子どもたち、保護者や病院関係者にも大変好評であったため、引き続いて当院と松山赤十字病院で実施することになりました。

#### 亜裕美ちゃん基金

平成6年に中矢亜裕美ちゃんが生体肝移植のため、全国から約1,500万円の募金が集まったが、手術前に亡くなられた。遺族が募金を原資に「亜裕美ちゃん基金」を設立し、臓器移植の支援を行っていたが、代表である中矢敬二氏（亜裕美ちゃんの父）が亡くなられたため、平成26年8月、愛媛腎臓バンクに基金残高の寄附が行われた。

# JMAT 結成・出発式

## JMAT(日本医師会災害医療チーム) 結成・出発式の様子

日本医師会からの要請を受け、1月14日(日)に当院の医療従事者4名が第1陣として令和6年能登半島地震の被災地石川県へ向け出発しました。



▲院長からの激励とともに多くの職員の被災地への思いを一手に引き受け、4名の医療従事者が出発しました。

当院は、先般の災害で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げるとともに  
一日も早い復興をお祈り申し上げます。



No.53

医療安全管理部だよ

### 患者確認にご協力を！

新年早々大きな災害や事故が立て続けに起こり心が痛む思いをされたのではないのでしょうか。皆様にとって少しでも穏やかな日々を過ごされますようお祈りしております。

今回のテーマは患者誤認防止についてです。当院では外来・入院を含め様々な場面で患者誤認を防止するための対策を講じています。例えば、名乗れる患者さんには必ずフルネームで名乗って頂き、名乗ることができない場合は氏名と照合できるもので確認する、システムとして受付票やネームバンドを使ってバーコード認証を行うなどです。しかし、残念ながら完全に防止することはできていません。職員は誤認を起こさないよう日々気をつけながら業務をしています。でも様々な要因が重なり、ミスが生じてしまうのです。そう、「人はミスを必ず犯す」ものなのです。

そこで、医療安全管理部からのお願いです。外来に来院されたら①受付票の氏名が間違っていないかを確認してください。そして、②検査・外来待合、診察時には必ずフルネームで名乗ってください。③医療者から手渡されたものが自分のものであるか確認してください。また、入院時には全ての業務の前にフルネーム確認をしていますので、「またあ・・・」と思わず毎回名乗って頂くと大変助かります。医療者だけでなく、患者さんにも一緒に協力してもらうことで、より患者誤認の発生が少なくなります。ご協力をよろしくお願いいたします。

山田花子です。

お名前フルネームでお願いします。



### 転入・転出医師 (2023.12.1~2024.3.15)

所属	氏名	専門
小児科	吉松 佳祐	専攻医
泌尿器科	船木 慶佑	泌尿器一般

▶ 転入

所属	氏名
産婦人科	大木 悠司
泌尿器科	毛利 晨佑
救急科	日野 壮周
循環器内科	岡部 光

▶ 転出

# 連携医療機関紹介 ～第33回～

## 医療法人 星の岡心臓・血管クリニック

- 所在地 松山市東石井1丁目5-5
- TEL 089-956-5511
- 診療科目 循環器内科・心臓内科・血管内科・内科
- 病床数 15床 ■外来診療時間 休診日 土曜午後・日曜・祝日

	月	火	水	木	金	土	日
9:00～12:00 初診受付(9:00～11:30)	○	○	○	○	○	○	×
14:30～18:00 初診受付(14:00～17:00)	○	○	○	○	○	×	×

【病院の概要】 石井地区(伊丹十三記念館東隣)に2014年健康寿命延伸を理念とし開院させていただきました。心臓病・血管病専門クリニックで、その基礎疾患である生活習慣病管理も扱っております。足外来(むくみ、だるさ、痺れ、冷感)をしているのも特徴です。

【病院の特徴】 当院の特徴は心臓病・血管病の確実で迅速な診断とそれに基づく(狭心症、下肢の閉塞性動脈硬化症、不整脈等に対する)カテーテル治療とその後の再発予防の取り組みです。検査は通常の心電図や心エコー・血管エコーのみでなく心臓・血管専用的高機能CTも備え受診当日か2回目の受診で診断。その後の治療に即取り組める様にしています。特殊なカテーテル治療や心臓外科的な手術に関しては県立中央病院に依頼・連携することも多く病診連携を強化しております。また術後の患者さんや心不全患者さんに“心臓・血管リハビリ”を介して早期の社会生活への復帰や再発予防にスタッフ一同が情報共有して取り組んでいるのも特徴です。県立中央病院からの逆紹介も積極的に受け入れていますのでご検討ください。



## いまいりウマチ・リハビリテーション

- 所在地 松山市井門町574-1
- TEL 089-948-8558 ■FAX 089-957-8133
- 診療科目 整形外科・リウマチ科・リハビリテーション科  
麻酔科・ペインクリニック外科
- 病床数 19床 ■外来診療時間 休診日 日曜・祝日・水曜午後・木曜午後・土曜午後

	月	火	水	木	金	土	日
9:00～13:00	○	○	○ 新患は 10:00まで	○ 新患は 10:00まで	○	○ 14:00まで	×
15:00～18:00	○	○	×	×	○	×	×

※予約なしの受付は診療終了時間の1時間前まで。予約なしの受付数に限りがあります。  
※ペインクリニック外科は第3火曜日・土曜日休診となっております。

【病院の概要】 医師2名、看護師15名、理学療法士8名、診療放射線技師2名、臨床検査技師1名、臨床工学技士1名、医療事務8名、看護補助4名、厨房2名、計43名の整形外科とペインを専門としたクリニックです。開院は2022年11月で場所は松山インターの近くの井門町です。

【病院の特徴】 整形外科とペインクリニックの2診体制です。各種血液検査が可能で画像施設としてもX線、骨密度、エコー、CT、MRI検査機器があります。2階には19床の病棟があり看護師が常時2名以上勤務しきめ細やかな対応を心掛けております。またクリーンルームの手術室を持ちコンピュータ支援下の人工股関節置換術を中心に様々な骨折治療、脊髄刺激療法、硬膜外腔癒着剥離術などを行っています。県立中央病院とは患者様の紹介そして受け入れなど開院早期より連携をとっています。



当院は、2010年10月29日に「地域医療支援病院」の承認を受けています。このコーナーでは、紹介・逆紹介によって連携している医療機関を随時ご紹介させていただきます。(紹介順序につきましては、順不同ですのでご了承ください。)

